

10月つくし組だよ



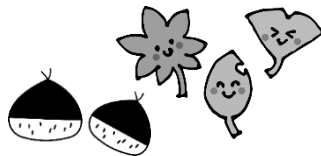
まれに見る厳しい残暑もようやく落ち着き、少しずつ秋の気配が感じられるようになりました。子どもたちは、園庭や公園を駆け回り「虫いたー！」と発見を教えてくれたり、「よーいどん！」の掛け声に合わせて一斉に走り出したりと、4月の入園・進級当初に比べると遊びの幅も広がり、お互いのすることを真似して楽しむ姿も見られるようになりました。8月に入園したお友だちともすぐに打ち解け、笑い合ったりとますます賑やかなつくし組です。コロナ禍で見合わせていた乳児組(0, 1, 2歳児クラス)の運動会、発表会への参加も今年度から再開します。初めて経験する行事に戸惑いや緊張を隠せない子もいると思いますが、成長の過程と捉え、温かく見守っていただければ幸いです。

今月のわらい

- ・ 戸外遊びや散歩を通して保育者や友だちと一緒に全身を動かすことを楽しむ。
- ・ 試行錯誤しながら、身の回りのことを自分なりにやろうとする。

今月の歌

- ・ やきいもグーチーパー
- ・ 大きな栗の木の下で



お願い

今年度も早いもので半分が過ぎました。持ち物の記名が薄くなっていないか、名前シールがはがれてしまっていないかなど再度ご確認をお願いいたします。また劣化が進んだエプロンもお取替えをお願いいたします。

お着替え、頑張っています！～「選ぶ」ということ～

個人差はあるものの、自分でズボンやおむつを履いたり、シャツを脱ごうとしたり、なかには「汚れちゃったからお着替えする！」と自分で着替えが入ったボックスから新しい衣類を取り出して着替える子もいたり、自分でやりたい気持ちが強く出始めています。そこでボックスの中に赤青黄の3色の仕切りを設置しました。赤いスペースにはズボン、青にはトップス、黄色には肌着とアイテムごとに入れる場所を決め、子どもたち自身が必要な物を探しやすく、出しやすいようにしています。色の認識も進み始め、保育者が「赤からひとつ出そうね」などと声を掛けると適切に衣類を選ぶこともできつつあります。

「選ぶ」ことは、私たちが実践している見守る保育の中でも大切にしていることのひとつです。何を着るか、何をして過ごすか、何をどれくらい食べるか、そして成長すれば進路の選択など、人生は常に「選ぶ」ことの連続です。幼いうちから自分で選択しそれを周りの大人に認めてもらうことで、自分に自信が持てるようになり、人生の岐路に立ったときにも自分の意志で未来を切り開いていけるようになるのだと思います。もちろん自分で「選ぶ」ことには「責任」や「失敗」もついてきます。大人はついつい「失敗すると可哀想だから…」と、先回りして子どもが失敗しないための選択をしてしまいがちですが、子どもは自分がした選択の結果、失敗してしまったとしても、誰かのせいにするのではなく、次はどうすれば失敗しないか、どうすれば良かったのかを自分で考えて次の選択をします。つまり自分の選択に自然と「責任」を持つようになるのです。

子どもは選ぶことが大好きです。着替えしたくない！とイヤイヤモード全開の時には「じゃ、自分で好きな服、選んでみる？」と声を掛けてみてはどうでしょう。そこからやる気スイッチが入ることも少なくありません♪

現在、登園時に着替え一式をおむつの中に詰めた物をご用意いただいておりますが、自分で衣類を選べるようになりましたら、登園時のご用意は不要となります。職員が順次個別にお声掛けいたしますので、それまでは引き続きご用意をお願い致します。

